ダカーンの後継者

By Keith Baker

「リーシュ・ダカーンの王冠・・・」 そうハラスは呟いた。
何ヶ月もの間、レリックを追い続け、やっと目の前にそれが横たわっていた。
彼は前に進み、値の付けられない宝に手を伸ばした。

「汚い手で王冠に触れるな! お前の指を食わせるぞ!」 その声は柔らかだったが厳しく、煙った音に満たされた。
ハラスは手の中で、剣を回した。
その声の主は、銀の鋲が打たれている黒いレザー・アーマーを着たホブゴブリンの女性だった。
巨大なバグベアは、彼女より遥かに大きく、グレート・フレイルを振り回した。
端に、ハラスは、動く光る物に気付き、影に溶け込むように巧妙に作られた黒いプレートメイルを着た2体目のホブゴブリンを見つけた。
その戦士は、剃刀のように鋭いスパイクがついた長いチェーンを振り回し、ハラスが反応する前に、彼の首にチェーンを巻きつけた。

わずかな間をおいて、彼は武装解除された。
ホブゴブリンの女性は、王冠を持ち上げ、ハラスに振り向いた。
「このサークレットは、お前の種族より古いものだ。ハーフエルフよ。」
「これは私の民の遺産で、コーヴィアの支配権の証だ。」
「時はもう一度、われらに向かって流れている。」

エベロン・ワールドガイドは、この世界の中で活動している28の組織の情報を提供していますが、「ドラゴンシャードでは、より多くの情報を提供します。

アッシュに属する者、顔の顧問団、ズィラーゴのトラストと呼ばれる3つの組織についてです。

これらのグループのそれぞれについて、ドラゴンシャードで説明し、あなたの世界を彩る力に深い洞察を与えます。今週は、ダカーンの影に潜んでいる強い力について調査します。

歴史

ダカーンの帝国は、戦争の技術を土台として建国されました。数千年もの間、ダルクールがやって来るまで、彼らがコーヴィアの支配者でした。
彼らの技術の全てを以ってしても、ダカーンのゴブリン達は、ゾリアットの狂気の君主の力に対し、優位に立つことができませんでした。
ゲートキーパのドルイド達が、カイバーの深淵にダルクールを封じ込める頃には、帝国の以前の栄光に影が落ちていました。
千年紀の流れの中で、帝国は残酷にも崩壊し、人類がコーヴィアに到着する頃には、帝国は廃墟の中で忘れ去られました。

そう思われてきました・・・

帝国が崩壊した時、少数の偉大な将軍と指導者は、氏族の中に隠れ、彼らが見ていた闇を超えて、ダカーンの知識を残そうと決意しました。ダーグーンは再起し、氏族はもう一度表に現れました。
彼らがひとりの支配者の下で団結するなら、ダーグーンの氏族は、簡単にリーシュ・ハールクの椅子

を奪うことができ、ダーグーンを征服すれば、ダーグーン人は、コーヴィアの近隣諸国に対する脅威となりえます。

しかし、大きな障害が立ち塞がっています･･･　氏族の誰も、誰が帝王になるのかについて同意しないことです。

ダーグーンの真の後継者は、誰なのでしょうか？

この問題が、これまでの間、彼らがより広い世界に対して脅威を起こしていない、現在のダカーン氏族の間に終わりのない対立を生み出しています。

ダーグーン人とコーヴィアのホブゴブリンとの大きな違いのうちのひとつは、氏族内の異種族間共通の階級制度にあります。ガールダーとマーグールでは、強者が弱者を支配します。
リーダーシップは恐怖に基づいており、弱い種族はより強力な圧政者を嫌っています。
ダーカーンのゴブリンでは、こうなっていません。
各種族は、社内における役割をそれぞれ持っており、その役割に取り組んでいます。
ホブゴブリンとバグベアは、組織と規律を維持できることを重視しており、ホブゴブリンは武器の力に頼らずに支配しています。バグベアの強さは、氏族の敵に対して向かっています。これらの種族的な役割を以下に説明します。

ダーカーンのホブゴブリン

ホブゴブリンは、その創生から現代迄、ダーカーン社会の礎を常に作り続けてきています。戦闘と宮廷において、彼らホブゴブリンは最もよく訓練されています。
ホブゴブリンは、ダーカーン社会を支配しており、自分達の権力闘争はめったに行われません。
バグベアとゴブリンが社会の中でそれぞれの役割を果たしているように、彼らのリーダーシップの技能は、数世紀に渡って証明されています。
ホブゴブリンの兵士は、歩兵、弓兵、騎兵として特別な訓練を受けています。
典型的なダーカーンの兵士は、２レベルファイターで、彼らの全ての特技は、軍の兵科に焦点を合わせています。
弓兵は、《近距離射撃》、《精密射撃》か、《遠射》か《速射》のどちらかを持っています。
騎兵は、《騎乗戦闘》、《駆け抜け攻撃》か、《蹂躙》か《猛突撃》のどちらかを持っています。
歩兵の特技は、能力値を基本として変わります。ダーカーン歩兵の戦闘スタイルは、強さ以上に速度を重視する為、《強打》やそれに関する特技はめったにみられません。一般的な特技は、《攻防一体》、《武器落とし強化》、《回避》、《強行突破》と《武器熟練》です。
エリート兵士は、《一撃離脱》と《大旋風》を使うことで知られています。
ダーカーン人は、鎖を使った武器、フレイルやスパイクド・チェーンを使うことで知られています。
チェーン使いは、足払いを自分の技能を発揮して行うことを楽しみ、攻撃の武装解除を行います。
ダーカーン軍は、厳しい組織と驚くほどの柔軟さの両方を持ち合わせています。軍は、戦闘の状況に応じて、戦術と隊列を即座に適応させることができる歩兵による小単位を基本としています。

ホブゴブリンは、仲間と連携して戦うように訓練されており、強力な敵に対して自らの戦い方を最大限、発揮できるように、瀕死状態の仲間を治療したり、挟撃するといった戦術をとります。
ダーカーンのホブゴブリンは、戦闘において、一切の規範も守りませんし、バグベアのバーサーカーのような栄光を追い求めようともしません。
ホブゴブリンは、自らの技能についてプライドを持っていますが、門を見つけることや、場所を確認するといった、唯一のゴールがある戦いでは、迅速かつ効率的に目的を成し遂げます。
伝承の中では、わずかな例外はありますが、軍は伝統的に男性のホブゴブリンの役割です。しかし、女性にも社会に関わる多くの役割を持っています。
ダーカーンにおける魔法の最も一般的な形態は、バードによるもので、この才能は、概ね氏族の女性にのみ現れます。ダーカーンのバードは、ドルカラ（duur'kala）（「哀歌の歌い手」の意）として知られています。
彼女らは、軍を鼓舞することと、呪文によって傷を癒すというふたつの能力から、丁寧に扱われます。
ドルカラ（duur'kala）は、ダーカーン人の精神的指導者です。
彼女らは、共同体を支配し、氏族を奮起させ、より素晴らしい未来を作り出す為に、過去の栄光と先祖達の行いについて話します。錬金術、治療、外交は、女性の技として見られいます。
男性のホブゴブリンは戦い、女性は精神的、肉体的な傷を癒します。
バードの才能は極めて珍しく、多くの女性のホブゴブリンは、これらの技に熟練し、激しいトレーニングを積み、専門家のレベルまで研鑽を積んでいます。

ダーカーンのバグベア

ダーカーンの歴史の中で早い段階から、バグベアは英雄であり殉職者であると考え、自らを鍛え上げてきました。彼らは自らの強さが帝国の偉大な武器であると信じるよう教え込まれています。
ほぼ全ての戦いに於いて、自らの気概と能力を証明したがっています。
実際、男女共に全ての成人のバグベアは、少なくとも1レベルバーバリアンです。

ダーカーン人のバーバリアンは、典型的なバーバリアンではありません。代わりに、戦闘での熱狂を洗練した形で表している激怒能力で、バーバリアン・クラスは、戦闘訓練では特別な存在として扱われています。
戦闘では、バグベアのバーバリアンは、前哨兵や突撃兵として参加し、敵軍の兵と激突し、自らの強靭な力で敵をなぎ倒し、後方で厳しく規律を守るホブゴブリンの兵が展開している間、敵の陣形を寸断します。ダーカーン人のバグベアの得意なクラスは、バーバリアンです。

ダーカーンのゴブリン

ゴブリンは多産である為、全てのダーカーンの共同体で最大の派閥を作り上げています。ダーカーンのゴブリンは、他のゴブリン種族中の自分達の文化よりも、より遠い文化に憧れを抱いています。多くは小作農と小売商を務めており、戦闘以外の任務でホブゴブリンやバグベアを支援する業務につい

ています。

最近になって、少数のゴブリンは、秘術呪文と技術について、最新のトレンドを調査しました。特にケチ・ヴォラー氏族の間で行われています（エベロン・ワールドガイドの154ページ参照）。

これらのゴブリン・ウィザードとアーティフィサーは、ゆっくりと氏族の尊敬を勝ちとりつつあり、文化の重要な部分となりつつあります。

ふたつのダーカーン氏族は、ゴブリンだけで構成されています。共に、印象的な技能で有名です。

タラシュク（「沈黙の狼達」の意）は、軍事作戦における戦場での情報収集を目的として訓練されたゴブリンの偵察部隊です。タラシュクの偵察兵は、ローグやレンジャーのレベルを取ります。

シャラシュク（Shaarat'khesh）は（「沈黙の刃」の意）は、スパイと暗殺者によるエリート部隊です。シャラシュク（Shaarat'khesh）は、長い間、非武装のゴブリンを生ける武器にする為に格闘技を訓練してきました。

その結果、シャラシュク（Shaarat'khesh）のゴブリンは、《修道士の訓練》特技を使い、ローグとモンクのレベルについて修練します。

古代からの伝統に基づいて、沈黙の氏族は、いかなる対立にも片側だけに付くことはしません。

その代わり、彼らは全ての側に自らの軍事力を提供し、傭兵として、戦場でお互いの兄弟と戦っています。完璧な公正と信頼のため、この名声は、シュクで、数千年も語り継がれています。

彼らの氏族は、クライアントの秘密を漏らすゴブリンを抹殺します。

その技を学ぶには、シュク氏族出身でなければなりませんが、まれに他の氏族の熟練したゴブリンが、沈黙の氏族のひとつに加わることがあると言われています。

ダーカーンの後継者を使う

ダーカーンの後継者は、エベロンのキャンペーンにおいて、ふたつの主要な役割を持っています。

ひとつめは、高レベルの冒険で、予想外の脅威を与えるゴブリン種を敵として使う場合です。

ゴブリン種は楽勝だと考えるパーティにとって、ダーカーン人との遭遇は思いがけない事態に直面することになります。これらのゴブリン種は、かなり高いPCクラスと優れた装備を持ち、DMが考え付く素晴らしい戦術で対応してきます。

剣の君主のように、ダーカーン人のNPCは、冒険者が技能を伸ばしていくように、力を持って強大化していきます。トゥーラ・ダカーンとらす・ダカーンは、彼ら人民の英雄であり、時と共に強力になっていきます。

冒険者達は、ゴブリン達の帝国のかつての栄光を取り戻そうとしているダーカーン人の宝探しと出会うこともあります。

DMが望むなら、その宝探しによって、これらのアーティファクトが本来、ダーカーン人のものであるという事実を強調することもできます。

カムヴール・ノレック（Khamvuul　Norek）のブレストプレートに対する所有権を主張し、自分の立場から、普通の墓荒らしのようにダーカーンの後継者に対して、その所有権を捨てさせることに拒む冒険者もいます。

ダーカーンの後継者を使うもうひとつの方法は、PCが積極的にダーカーン氏族の争いに関与することです。
ケチ・シャーラットが他の氏族より力をつけたなら、最終的には、彼らの存在が五カ国の国民に対して、脅威を生み出すことになります。恐らく、ケチ・ヴォラーは手が早く、トゥーラ・ダカーンは各勢力の均衡を保つ為に取引しようとします。
恐らく、リーシュ・ハールクはパーティを雇うでしょう。ホブゴブリンの王は、全てのダーカーン氏族を弱体化させ、新興国が徐々に弱体化することを防ぐ為に、キャラクター達を求めています。
ダーカーン氏族は、ゴブリン種のプレイヤー・キャラクターの良いネタになります。ケチ・ヴォラーのメンバーは、失われたダーカーン人の宝を彼女の氏族に取り戻すという期待から、人間やエルフ、ドワーフといった種族の者達と手を結ぶかもしれません。

気分を変えて、プレーヤーは、パーティの全員をゴブリン種にしてみるのもいいでしょう。
暫くの間、それが持つ『向こう側』を覗いてみませんか？

戦争の技術を重視している為、ダーカーンの後継者は、エベロンにエキゾチックな上級クラスを提供する良い方法となります。

シャラシュク（Shaarat'khesh）のゴブリンは、ニンジャを使い、ケチ・シャーラットの最も恵まれた剣士は、サムライに似た伝統に則っています。
エキゾチック・ウェポン・マスター、ケンサイ、ブレード・シンガー、マーシャル、タクティカル・ソルジャーは、氏族のあらゆる場所で見かけることができます。
非ゴブリン種キャラクターが、これらの伝統のうちのひとつを探求したいのなら、そのキャラクターは、氏族とのつながりを持つ必要があります。
例えば、彼の家族は最終戦争で奴隷となり、軍事技術を示すことで、彼は自由を獲得しました。
または、彼はダーカーン人のアーティファクトを発見し、彼らのチーフにそれを返すことによって、